

# 校長室だより

八代市立龍峯小学校  
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「**学びを生かす子供**」

～自信と誇りをもった「きらりと輝く龍峯っ子」の育成～

R3,1,27

NO,35

## 「心のアンケート」結果から (パートⅢ)

12月に、いじめの未然防止と早期解消を目的に行った「心のアンケート」(県教育委員会調査)の結果報告の3回目で、今回は最終回となります。

※問5と問6は、前号でも掲載した内容です。

問5 「相手が嫌と思うことを言ったりしたりしたことがありますか」

ある=21人、ない=45人

問6 「なぜ、相手が嫌と思うことを言ったりしたりしたことがありますか」(複数回答可)

イライラした=5人、相手に嫌なことを言われた・された=12人、遊び半分・面白かった=5人、自分がいじめられると思った=2人、けんかをしていた=4人、相手の気を引きたかった=2人、相手のためだと思った=1人

※問7と問8は、今号で新たに掲載した内容です。

問7 「いじめを見たり聞いたりしたことがありますか」

ある=5人、ない=61人

問8 「いじめを見たり聞いたりしたときどうしましたか」(複数回答可)

話を聞いた・声をかけた=3人、いじめている人に注意した=5人、自分の家族に話した=1人

問5で「相手に嫌なことを言ったりしたりした」と回答した子供は21人(32%)いましたが、問7で「いじめを見たり聞いたりしたことがある」と回答した子供は5人(7.5%)しかおらず、このギャップが気になりました。

いじめの解消のためには、「加害側にいじめを絶対にさせないこと」や「被害側にいじめを受けたときに立ち上がる勇気をもたせること」も必要ですが、最も重要なことは「傍観者をつくらないこと」だと考えます。いつもアンテナを高くし、早期にいじめに気づき、早期に解消に乗り出す(注意・相談・話し合い・寄り添いなど)子供を一人でも多く育てることを目指し、今後も道徳科をはじめ全教育活動の中で人権教育を行っていきます。

このほか、「心のアンケート」では、最近増加傾向にある「SNSでのいじめ」に係る問もありましたので紹介します。【裏面をご覧ください】

**問9「自由に使える情報通信機器を持っていますか」(複数回答可)**

スマートフォン=19人、携帯電話=4人、パソコン=10人、タブレット=17人、携帯音楽プレーヤー=4人、ゲーム機器=39人、持っていない=14人

**問10「よく使用する機能やサービスは何ですか」(複数回答可)**

電話=7人、メール=3人、ライン(LINE)=6人、ライン以外のSNS=2人、ゲーム=31人、メディアプレーヤー=17人、カメラ=11人、勉強に使う=6人、ホームページを見る、読む=3人

**問11「一日の使用時間」(一つだけ選択)**

30分以内=4人、30分~1時間=8人、1時間~1時間30分=9人、1時間30分~2時間=8人、2時間~2時間30分=6人、2時間30分~3時間=0人、3時間以上=2人

**問12「課程での決まりごとがありますか」**

ある=27人、ない=10人

**問13「22時から5時まで使わないというルールを守っていますか」**

いつも守っている=17人、時々守れないことがある=14人、ほとんど守れていない=3人、全然守れていない=0人、時間の決まりごとを決めていない=3人

**問14「フィルタリングはつけていますか」**

つけている=9人、今は外している=4人、はじめからつけていない=7人、つけているか分からない=15人、無回答=2人

**問15「ネット上で悪口を書いたり仲間はずれをしたりしたことはあるか」**

悪口も仲間はずれもした=5人、悪口はある=0人、仲間はずしはある=2人、どちらもない=30人

**問16「ネット上に個人情報をのせたことがありますか」**

自分のことも友達のこともある=0人、自分のことはある=0人、友達のことある=0人、のせたことはない=37人

SNSは、生活を豊かにする優れた機器です。また、学校においても、タブレットパソコン(一人一台配付)を活用した学習の深化を目指しているところです。しかし、近年SNSを介したいじめや性犯罪等が増加しています。また、それが低年齢化しています。

お子様を被害者にも加害者にもさせないために、家庭内で、SNS機器を持たせるか否か、持たせる場合のルールづくりとそれを守らせる方法等をお考えいただき、徹底させてください。

このアンケート結果は、今後の学校教育に生かしていきます。

家庭教育においてもご活用いただければと思います。